

スポーツクライミング

▶ 現状について

▶ 公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会

関連団体

- ▶ 国内上部団体として
 - ▶ 公益財団法人日本スポーツ協会
 - ▶ 公益財団法人日本オリンピック委員会
- ▶ 国内加盟団体として
 - ▶ 都道府県山岳(・スポーツクライミング)連盟(協会)
 - ▶ 全国高体連登山専門部
- ▶ 海外上部団体として
 - ▶ 国際山岳連盟
 - ▶ 国際スポーツクライミング連盟
 - ▶ 国際山岳スキー連盟

目次

- ▶ スポーツクライミングの起源と簡易歴史
- ▶ スポーツクライミング(クライミング)における道具
- ▶ 競技人口等
- ▶ 事故例
- ▶ 安全対策

スポーツクライミングの歴史-1

- ▶ 急峻な岩山での登山行為である岩壁登攀（ロッククライミング、アルパインクライミング）から生まれたスポーツクライミング。欧州で競技化されていくなかで、複数のルーツがあるとされ、1940年代後半から1980年にかけて、当時のソビエト連邦において自然の岩場で、規定の高さまで登る速さを競うスピード種目の競技会を開催したのが始まりとされている。
- ▶ オリンピックでのスピード種目は、15メートルの高さで、二人隣り合わせで競技を行う。
- ▶ ロープを確保支点毎に掛け直しながら登るリード種目に近いものは、1950年代のフランスやヨセミテでのフリークライミングから派生した。1985年、イタリアでは岩場でリードによる初めての競技会が開催され、フランスでは室内に設置されたクライミングウォールにおいて競技会が開催される等、徐々に欧州での競技会が活発化していった。

スポーツクライミングの歴史-2

- ▶ オリンピックでのリード種目は、6分間の制限時間で12メートル～15メートルの高さで行われる。

ロープを使わずに手足のみ（シューズとチョーク）で登るボルダリングは、フリークライミング黎明期から行われていたものの、競技化されたのは1990年代後半で、大きな岩（Boulder）の語源から岩壁というよりも大きな一枚岩を登る種目。

オリンピックでのボルダリング種目は、約4メートル程度の壁に超高難易度のコースを設定し、4分以内にどこまで登れるかを競う。速さだけでなく、以下に少ない手数で登れるかも採点基準となる。

- ▶ 東京オリンピックでは、この3種を合わせた「コンバインド（複合）」として初採用された。パリではボルダートリードが複合、ロスでは3種目別々になる。

スポーツクライミングの歴史-3

一方で、山国である日本も1950年代からクライミング競技者が存在し、各地の岩場を舞台に独自の文化を生んでいた。岩場での「冒険」を旨とするフリークライミングとは一線を画す、人工的な壁面コース主体の近年のスポーツクライミングも盛んで、2019年の世界選手権では男子の櫛崎智亜が優勝、女子では野口啓代が準優勝。メダル候補の一角として数えられている。

▶ その背景として、ボルダリングの普及があげられる。、日本のボルダリングジムは課題の質を向上させることで図ろうとするジムが多く、さまざまなレベルのクライマーに対応していることも要因のひとつと言えそう。

スポーツクライミングの今後



- ▶ ロサンゼルス2028ではボルダー、リード、スピードクライミングがそれぞれ独立したメダル種目として実施されることが決定した。

道具 装備-1



クライミングシューズ

チョークバッグ&チョーク

ハーネス

ハーネスとは、命綱であるクライミング
ロープと自分の身体を繋いでおくための
安全帯です。

ビレイ器具 ATC

▶ HMS型環付カラビナ

道具 装備-2



ロープ、クイックドロー

選手、審判員、ルートセッター登録

2025年度

選手登録 4月24現在 3062名 高体連 + 一般選手

審判員 582名 A級 21名 B級 51名 C級 510名

ルートセッター 119名 A級 10名 B級 16名 C級 69名 一般 24名

コーチ1 756名 コーチ2 145名 コーチ3 22名、 コーチ4 4名

因みに山岳は合計1791名

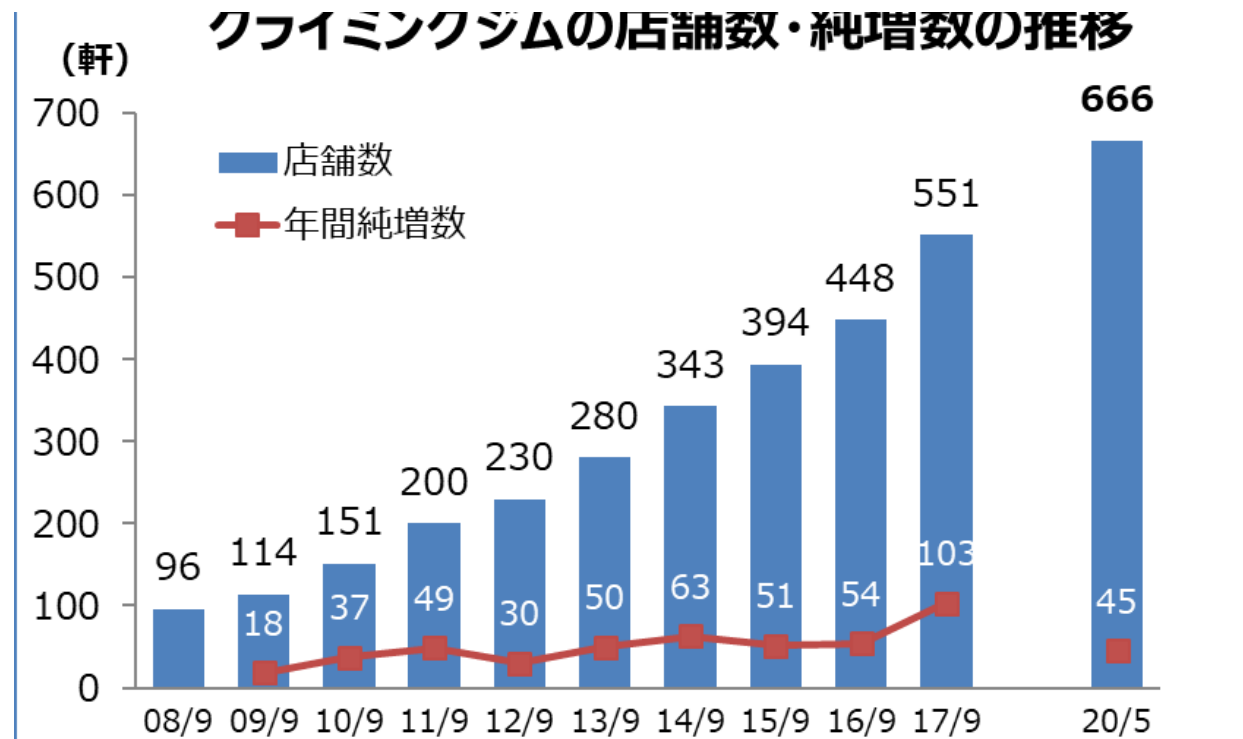
ルートセッター、審判員規程 講習カリキュラムは添付として下記にファイル

公益社団法人 日本山岳・スポーツクライミング協会 ホームページ

URL : https://www.jma-sangaku.or.jp/sports/sc_official_coach/

競技人口 クライミング施設

ネット上から抜粋



競技人口 クライミング施設

- ▶ 起伏のある高い壁を登る競技で、一説には愛好者を含む競技人口はネットによると**60万人**程度。選手登録は前述の通り(2025年現時点)。例年10,000人程度でそのうち登山を含む高体連が8000人程度なので登録は2000人程度。
- ▶ ボルダリングを始め、ジム数は平成10年代前半の数十軒程度から、今や500軒超とのデータがある。資格保持の指導者数については不明。
- ▶ JOC公認、JMSCA公認の施設は全国に数件、何れも自治体の施設。

競技会公認に必要な要件、抜粋

加盟団体等からの競技会開催公認制度を有している。

- ▶ (公認の要件) 第3条 公認の申請のためには、原則として、以下の全ての要件を充足しなければならない。(1) 競技会の事業計画(大会概要を含む)および収支予算書を提出すること。(2) 競技会において少なくとも決勝が、本協会が定める競技規則等に基づき行われること。ただし、当該競技会が決勝を実施しない場合は、少なくとも1つのラウンドを本協会が定める競技規則等に基づいて行うこと。(3) 競技会における審判長およびチーフ・ルートセッターが、本協会のA級またはB級の公認資格を有する者であること。(4) 競技会の規模が本協会の定める基準を充足すること。(5) 競技会の実施にあたり、安全上および公衆衛生上の適切な措置、事故防止、救護体制ならびに補償措置について適切な措置がとられていること。(6) 競技会の収支において不足があった場合には、本協会は一切の負担をせず、競技会主催者等が負担することを誓約すること。(7) その他、本協会が定める要件を充足すること

競技規則

【JMSCA_SC競技規則PDF】

URL : https://www.jma-sangaku.or.jp/wp-content/uploads/2025/03/%E2%98%85JMSCA_SC%E7%AB%B6%E6%8A%80%E8%A6%8F%E5%89%87_250313%E4%B8%80%E9%83%A8%E6%94%B9%E5%AE%9A.pdf

事故に至る例



クライミングジムにおける事故例

- ▶ 以下の例がある。
- ▶ 先日、クライミングジムにて練習中に滑落しました。4m程度からの落下でしたが、かかとの骨を複雑骨折しました。元々、ジムには落下用の安全マットがあるのですが、クッション素材のウレタンが老朽化により割れてしまっていて尚且つ表面上ではわかりませんでした。ジム側も安全管理が出来てなかったとは話していますが、治療費、休業保証(自営飲食店で現在代理を雇い縮小営業、売上げは低下)、慰謝料は頂けるのでしょうか？ 施設賠償責任保険には加入しているとの話でしたが、治療費の話も事故後、一ヶ月立っても連絡も無くこちらは全治3カ月(現在、42日間の入院中)で一年後の再手術もあり、リハビリ通院や職場までの移動経費等、頭が痛い事ばかりです。

外岩(自然壁)における事故例

- ▶ クライミングの名所・埼玉県小鹿野町の二子山（1166メートル）で2022年、登はん中に墜落し両足を骨折した東京都内の男性が「岩場の管理が適切でなかった」などとして、岩場を整備する小鹿野クライミング協会と町を相手取り、慰謝料など165万円の支払いを求める訴訟を、さいたま地裁川越支部に起こした。
- ▶ 協会と町の反論
- ▶ 一方、協会と町は全面的に争っています。協会は「クライミングは危険を伴うスポーツ。事故は自己責任」と答弁書を提出しました。町も「二子山でのクライミングは、まちおこしの事業ではない」と主張しました。しかし、協会発足の経緯や町の広報紙などからは、協会と町が密接に連携してクライミングによるまちおこしを進めてきたことがうかがえます。平山さんも町から観光大使に委嘱されており、神怡館という屋内ボルダリング施設の運営協力やアドバイスも行っています。
- ▶ このように、協会と町の関係や責任については論争が続いており、今後の裁判の展開が注目されます。

安全対策

- ▶ 基本的には前述の資格を持ったコーチの指導法に従う事
- ▶ コーチ1及び2の検定基準に各種記載がある。
- ▶ 特にロープを使う場合は確保方法に留意する事。
- ▶ 及び登攀者は、頭にヘルメットをかぶる事が望ましい。
- ▶ 室内では
- ▶ 狭い箇所でロープを使うクライミングはしないこと、
- ▶ 事故発生直後の搬送のしやすいスペースがあるとよい。狭い階段はもつてのほか。
- ▶ 消防署の点検を事前に受ける事。

Thank you

